道徳で心を耕し、ますます輝く人になります

昨日の「校長室から」では、友達に声を掛ける素敵な生徒について紹介しました。豊かな心の育成を、太宰府西中学校で目指していますので、昨日紹介したような子がどんどん増えると嬉しく思います。昨日は、ちょうど道徳科の授業もありましたので、全校を参観して回りました。どのように生徒の心が耕されているかを見たいと思ったからです。

各クラスにおいて、それぞれ異なる題材で工夫された授業が行われていました。授業をする先生方が、題材をもとに「このようなことを考えて欲しい・感じ取って欲しい」というねらいが伝わってくる授業でした。私も参観しながら、色々な道徳的な価値について考えることができました。

昨日の道徳の一部を紹介します。

『落語が教えてくれたこと』

人には色々なものの見方や考え方があることを理解し、個性や立場を尊重しようとする心情を養う

『ビッグオーとの出会い』

困難にどう対処するかを考えることから、それぞれの個性を尊重しようとする心情を養う

『良心とのたたかい』

自分の弱さや葛藤を克服し、正義や真実を求め、人間としてより良く生きていこうとする心情を養う

『「和食」の良さって何だろう』

和食を通して日本文化の良さについて話し合い、日本の伝統文化を継承しようとする意欲を養う

発表者の方に体を向けて話を聞いている生徒がいます。心が育っていると感じる場面です

『二通の手紙』

法やきまりを守ることの意義を理解し、社会の秩序と規律を高めていこうとする意欲を養う

『二重被爆者の方の生き方について考えよう』

二度、被爆された方が、生き証人として、平和な世界になるための活動をしたことを学び、より良く生きようとする心情を養う

新しい学習指導要領では、「考える道徳」「議論する道徳」という活動を通して、道徳性を養うと書かれています。現在の感染状況から、「議論する」活動は十分にはできませんが、「考える道徳」については実施可能です。

先生方が題材を吟味し、授業の工夫をして、子ども達に色々と考えさせる、という授業を積み重ねていくことで、少しずつ子ども達の道徳性を養っていきます。

これからも太宰府西中学校では、道徳科授業の充実を図ります。